

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970102618
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社
事業所名	愛の家グループホーム大和西大寺
所在地	奈良市菅原町184-1
自己評価作成日	平成21年11月13日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カリア
所在地	大阪市天王寺区堀越町1-1 四天王寺堀越ビル
訪問調査日	平成21年11月27日
評価結果決定日	平成21年12月29日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の出来る事・能力を活かしていただくよう意欲を引き出し日々の生活が充実するよう支援しています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駅から徒歩10分と近く、とても静かな住宅街の中にホームがありました。入所前より、細かくアセスメントをし、入所後も利用者がとまどう事がないよう入所前と持続した生活が出来るよう支援されていました。また、レクリエーションや・体操に職員手作りの用具を用意され、工夫されながら支援されていました。理念に掲げられている地域の中で当たり前暮らしを継続出来るように地域との人々との触れ合いを大切にされています。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	項目	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えていく (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

ユニット名 ( 1F )

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で運営理念・介護事業者宣言の唱和を行っています。	理念が入口に見やすく掲示されていました。理念に掲げられている様に、地域との交流も積極的にされていました。管理者と職員は、毎日唱和されて、理念の共有されていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームが主催となり近隣の方を秋祭りに招待しました。それ以外にも気候の良い時には散歩へ出かけその際挨拶をかわすよう心掛けています。	地域の幼稚園やスクールの生徒との交流・中学生の職業体験の受け入れ・隣接する地域の方からの茶道のお誘い又、ホームの行事に地域の方を招待する等、大変地域の方々と良い関係を築かれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	具体的な活動は出来ていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部の意見や逆に内部を知って頂く事で質問や意見を引き出せることもあります。	定期的な開催はされていませんが、家族、市の介護福祉課担当者、他のグループホームの方など、メンバーから意見や質問が出るよう積極的な取組をされています。	今後、2ヶ月に1回の開催を行い記録等の整備も行っていただくことで、職員間での情報共有も出来やすくなると思いますので、今後の取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所・保健所・社会福祉など手続きでお世話になる事も多く、電話やFAXだけでなく直接ご挨拶できる様に心掛けています。	市の担当者に運営推進会議等で意見のやり取りを行ったり、それ以外にも相談できる関係を築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止要領に伴い、万が一身体拘束を行わざるを得ない場合は所定の手続きを行います。	管理者・職員共に、身体拘束の内容をマニュアル等で認識されていました。建物のハード面での不安や、職員や家族の不安、リスク等様々な事があるかとは思いますが、利用者が自分の思う行動が出来る環境に近づける様な努力が見られました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事故報告書やヒヤリハット・申し送り・介護記録を用いて不明な点ないよう明確に記載し、うっ血やアザを発見した際には日時、どの部分が気になるかを確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性がある方に関しても本社へ確認しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書等を用いて説明・同意を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時に、お話しする時間を設けて要望を引き出せるよう努めることで、ご家族様に協力いただくこともあります。	家族の面会時に意見を言いやすい様に努めています。年に1回「お客様アンケート」を取られ、意見や要望を出し易いように配慮されて、その意見を改善・運営に反映できる様に取り組みされました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月カンファレンスを用いたり、申し送りノートや業務内で話す機会があります。	カンファレンス時や日常会話の中で意見が言いやすい様に配慮されており、行事等を企画する時に職員のアイデアが活かされています。又、管理者がユニットリーダーをされていた事もあり、各職員が意見や相談しやすい関係を作られています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の意見・力が発揮出来やすい職場を目指しています。個々の得意分野を把握することで役割を明確に出来るよう努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市・県・外部からの講習会に参加したスタッフは他のスタッフへ申し送る。自社の研修も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	具体的な活動は出来ていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用決定しご本人が入居されると、任せていただけることが多いです。事前にケアについてメモを頂く事もあります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に情報としまして、御家族様よりフェイスシートをご記入頂いています。入居が決定しましたら任せて頂ける事が多いです。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の状況と何で一番お困りになっているか、そしてどのようにされたいのかをご本人・ご家族様から要望を引き出せるようお話させて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活していく中で日々教わるがあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日訪問して下さり職員と一緒にご本人を見守り続けるケースと、遠方や御家族様自身の体調もありホームに任せて下さるケースもありますが、いずれにしても相談・報告を心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣に自宅がある方については、ほぼ毎日の訪問があります。友人の来訪もあり楽しい時間を自宅で過ごされる場合もあります。イベントがある場合には事前に報告しています。	今までの馴染みの関係が継続出来る様に支援されています。友人が来訪していない日で、利用者が面会を希望されれば、ホームより友人に連絡をとり、来訪依頼する事もある様です。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	意思表示が困難な方や難聴の方に関しましては職員が間に入ることによって会話が弾んだり、入居者様同士がお互いのお部屋を訪れる場面もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、ご本人やご家族から連絡を頂いたり遊びに来られることもあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望は人それぞれ違いますが、職員は信頼関係を大切にする事で、少しでもご希望に応えられるよう日々努めています。	入居前に利用者の今までの生活暦が分かるような細かい情報シートに記入して頂き、入居後は日常生活の中で思いを聞き、半年に1回アセスメント表を見直しされる等、利用者の把握に努められています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人情報個別にファイルし、関係職員は外部にもらすことなく情報の共有に努めます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	規則正しい生活リズムを心掛けていますが、体調面等で柔軟に対応しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態の変化があまり見られないのが現状ですが変化がある方に関しましては意見を出し合い身体的な面では関係者からの意見を頂き反映しています。	家族や本人の意見を取り入れて3ヶ月に1回、計画書の見直しをされています。又、随時変化のあった時はその都度見直しをされています。面会が少ない家族には、計画書を郵送するだけでなく、電話で意見や要望を聞かれ、計画書に反映できるように努めておられます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録をし、気になる点や変化が見られる点があれば記録に残し職員間での共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、御家族からの希望で外出・外泊の際には協力し大切な時間を過ごすよう努めます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼稚園から行事への招待やお茶会の招待も受けます。防火訓練は地域の消防署に協力いただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームの往診医が決まっていますが、今までの医療機関から離れることはお勧めしていません。利用者様・ご家族様が安心して納得した上で治療を受けられるよう支援します。	往診医が来られていますが、今までのかかりつけに通院する事も可能です。又、かかりつけ医への受診は基本的には家族が行う事になっているが、希望されれば職員が付き添う事もできる様です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問看護を実施。異変や気になる事への相談・アドバイスも参考に健康管理に留意しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には状況・退院に向けての期間や経過報告等ママにご家族に連絡を取り相談しながら退院に備えます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えられる可能性がある方には、直接お越しいただき往診医より病状・今後どのような症状が見られるか説明して頂きます。その上で、検査の必要性や受け入れ先を検討して頂きます。	往診や、訪問看護の協力は24時間連絡が取れる体制を取られています。終末期を迎えられる可能性がある方は主治医、家族、本人、職員で今後の対応について話し合いがもたれるが、医療が多く必要な場合は現在受け入れが難しく、病院や、他の施設に移るなどされています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練の実施はありませんが、事故報告書・ヒヤリハットなどを通じて事例から学び、原因・今後の対応策を考え実践しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を実施。	年2回訓練をされ、訓練以外でも職員間で常に避難方法等を話し合われています。訓練には職員・利用者・消防署のみで、地域住民が参加されていませんでした。	12月に地域の訓練に始めて参加される予定の事なので、災害時での地域とのかわり方に、期待したいと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様という事を常に念頭に置きプライバシーの保護を徹底する。自尊心を傷付けない事はもちろんです。が馴染みの中での言葉かけや、その中から蓄積された人間関係があって成立する事も事実です。	日頃より、プライバシーの保護や、情報の取り扱いに対して、話し合われている様です。視察中、見かけた職員は利用者のプライバシーを損ねないような声かけをされていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや、希望に添えるよう心掛けお一人おひとりの気持ちを大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自分の気持ち・意見を伝えられる方に対しては、その思いを尊重し、意思疎通が困難な場合でもその人らしさを汲み取る努力を支援します。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度、ご本人のご希望を御家族にお伝えし訪問理容を行っています。時には馴染みの美容室へ行かれる場合もあります。衣類の選択もご本人に合わせるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳・下膳・後片付けなど個々に出来る事を自発的に行っていただいています。スタッフが各テーブルにつき利用者様と談話を楽しんでいます。	箸・コップは馴染みの物を利用できます。お汁とご飯をよそったり、後片付けは、出来る利用者で当番を作られています。食事は調理人がいますが、おやつは利用者と一緒に頻りに作られています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取においては、食事以外にもお茶の時間・おやつの時間を用いている他、訴えや体調に応じてしっかりと確保しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後、自立の方には声掛け、介助を必要とする方へも実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、試行錯誤しおむつの使用を減らしトイレでの排泄の支援に努めています。	個々の排泄パターンを把握されていて、日中はほとんどの方がトイレを使用されている様です。又、職員は研修に行き、実践に取り入れる事で、利用者の自立を目指す様、努力されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックから、往診医・訪問看護師に予防と対応を相談。個々に応じた服薬・飲食物の工夫や運動への働きかけに取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や人数は予め、その日の予定や体調に合わせて相談・申し送り等、ある程度の融通は考慮し支援しています。	曜日や人数は決めているが、毎日の入浴や夕食後の入浴が可能であり、臨機応変に対応できるよう支援されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一応曜日は決めています、その時々臨機応変に対応させて頂きます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員1人1人が内容を周知し、変更などがあれば申し送り等活用し報告している。投薬担当者はサインを行い、投薬ミスがおこらないよう取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課や役割を分担することで、張り合いや喜びが生まれ、新たな楽しみを個々に提供できるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	試行錯誤しながら季節に合った外出先に出かけられる機会を作っています。個別での買い物やドライブなどへも行くことがあります。	可能な限り散歩や買い物・隣接する喫茶へ出かけています。ご家族からも、散歩に良い公園を教えて頂き、出かけられている様です。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけられた際には出来るだけレジの支払いを見守り支援します。また、実際、御家族・ご本人の要望で個人が所持されているケースもあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご本人からの要望がある時に、その都度取次ぎを支援し、御家族に対しましては「ホームメール」と題し、毎月のお手紙を職員の方からお届けしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間はもちろん各居室に置きましても清潔を保ち臭いには敏感に反応出来るよう努めています。壁面には季節ごとの貼り絵や写真などを飾ったり等工夫しています。	廊下やリビングに、写真や利用者手作りの壁面画が飾られています。又、庭で季節の野菜を育てておられ、収穫や食することで季節感を感じることが出来ます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを備え思い思いに過ごして頂けるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様へ相談させていただき、ご本人の意思・好みに合わせ愛着があるようなもの等は利用できるように協力させて頂きます。	入居時にはご家族、本人と話し合い、家で過ごされていた状態に近いようにされています。居室内は使い慣れた家具が持ち込め、畳を敷く事も出来、利用者が落ち着いて生活出来る様になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部はバリアフリーで車椅子の方でも自走が可能です。また各居室はもちろん共同スペースにもコールを設け職員は反応・対応出来るよう心掛けています。		